

高校生を対象としたインターネットに関する知識と 利用状況について

矢 作 由美子

(文教大学教育研究所客員研究員)

Survey on Senior High School Students' Knowledge
of the Internet and their Internet Usage

YAHAGI YUMIKO

(Guest Researcher of Institute of Education, Bunkyo University)

要 旨

本報告は、高校生を対象としたインターネットに関する知識と利用状況について、模擬授業を通して高校生185名に対し、アンケート調査を実施した。本調査結果を通して、インターネット上のコミュニケーション手段として利用されるSNSは、接続している個人のメディアリテラシーの未熟と、状況認識の誤りからトラブルに遭遇していることが明らかとなった。

1. はじめに

現代の若者は、インターネットを介したコミュニケーションが日常化しており、多様なSNSを利用している。内閣府が発表した「令和4年度青少年のインターネット利用環境実態調査結果」では、低年齢の子どもの74.4%が、インターネットを利用している。年齢と在学別でみると、通園中（0歳～6歳）では68.1%、小学生（6歳～9歳）は90.9%、小学生（10歳以上）の97.5%、中学生の99.0%、高校生の98.9%がインターネットを利用している。利用機種について高校生のみをみると、学校から配布されているGIGA端末を除くと、スマートフォン96.9%、自宅用PC・タブレット42.8%、ゲーム機46.8%となっている。10歳以下を見ても低年齢化は加速しているといえる。

インターネットは、その普及とともに様々な分野にサービスが浸透し、誰もが手軽にSNSを利用することができる。しかしながら、インターネット上には、有害情報が氾濫し、

青少年の興味を引く多様なサービスが次々と登場している。その一部には、それらが悪用されて犯罪被害につながる重大な問題も起きている。

2020年より小学校でもプログラミング教育必修化となっているが、知識だけ入れても意味はない。正しいITモラル、情報リテラシーを同時に教えていく必要がある。

そこで本報告は、高校生を対象としたインターネットに関する知識と利用状況について、模擬授業を通して高校生185名に対し、アンケート調査を実施した。本原稿の文字数の関係で主な分析結果のみ紹介し、分析結果から中間報告とする。一部言葉の使用で、現在はX（旧Twitter）となっているが、本報告では、Twitterとする。

2. 目的、調査対象と方法

本調査の目的は、高校生を対象としたインターネットに関する知識と利用状況について現状を明らかにする。

調査方法は、2020年8月から2020年12月に実施した。A大学のB教授との共同研究の一環で、B教授が模擬授業（「ITモラルと情報リテラシー、サイバー犯罪対策を通じて」）を実施した高校の協力のもと、模擬授業内の最後に、集合方式のアンケート調査を行った。分析は、SPSSを活用し単純集計及びクロス集計とする。

調査対象は、模擬授業を受講した「進学校」と呼ばれる高等学校4校を対象。全体の回答者は、185名。性別については、「男子・女子・その他」としたが回答は以下の通りとなった。「男子」85名、「女子」100名。学年は、「高校1年生」18.9%、「高校2年生」80.5%であった。

3. 研究倫理

「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針ガイダンス」第8（p66～）に基づき実施した。本調査は実施するにあたり、侵襲がない研究であれば介入研究であっても口頭での同意とした。そのため学校関係者へは、調査実施前の口頭説明、文書説明を行った。16歳以上の未成年者であったこと、かつ、研究を実施することに十分な判断能力を有すると判断し、調査実施前に匿名性が保証されること、学校の成績や指導関係には一切かわりがないことなど【お約束】として明確に口頭、および文章で説明した。

4. 分析結果

(1) インターネットの利用状況（複数回答）

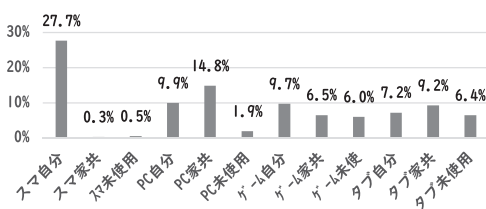


図1 インターネット利用機種の状況（複数回答）

図1に示すように、現状把握を目的に複数回答とした。わずかながらスマホ、パソコン、ゲーム機、タブレットの未使用者はいるが、その一方で、「自分用のスマホ」（27.7%）が最も多く、続いて「パソコン自分用」（14.8%）、「ゲーム自分用」（9.7%）、「タブレット家族共用」（9.2%）とネット利用については用途に応じて使用していることが示された。以下では、利用機種に関連して主な分析結果を報告する。

① ゲーム機自分用と性別

「自分用のゲーム機」と「性別」でどのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。 χ^2 検定 ($\chi^2(1)=6.108$, $p<0.05$, $p=0.013$)、および、Fisherの正確性確立検定 ($p=0.018$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.183$ で有意で、残差分析の結果は、5%水準で有意であった。

「自分用のゲーム機」でのネット利用について、「男子」は、「自分用のゲーム機を利用」で「ある」が多く、「女子」は、「自分用のゲーム機」でのインターネット利用が少ないことが示された。

② 家族共用のタブレットと性別

「家族共用のタブレット機」と「性別」でどのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。 χ^2 検定 ($\chi^2(1)=9.718$, $p<0.01$, $p=0.002$)、および、Fisherの正確性確立検定 ($p=0.002$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.231$ で有意で、残差分析の結果は、1%水準で有意であった。

「家族共用のタブレット機」でのネット利用については、「男子」は「ない」が多かった。「女子」は「ある」が、有意に多いという結果だった。

(2) 平日、1日のインターネットの平均利用時間 (N=184) との関連について

利用時間について、最も多かったのが「1時間から3時間」(63.6%)、続いて、「4時間から5時間」(20.7%)、「60分以内」(12.5%)、「6時間から9時間」(2.7%)、「10時間以上」(0.5%)だった。

① 性別と利用時間

「平日のインターネットの一日平均利用」と、「性別」でどのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(4)=16.015$, $p<0.01$, $p=0.003$)、および、関連度を表す連関係数は、 $V=0.295$ で有意で、1%水準で有意だった。

残差分析より、調整済み残差が1.96を上回っているのは、「男性」が、「4時間から5時間」で、「女性」は、「60分以内」で有意に多いことが示された。

したがって、一日のネット利用時間については、「男子」の方が「女子」よりも利用時間が長いことが示された。

(3) SNSでのアカウント数について

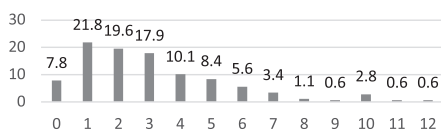


図2 SNSのアカウント数 (N = 179)

図2に示すように、SNSのアカウントを「持っていない」が7.8%いるが、92.2%が持っていた。内訳をみると、「1個から3個」が、59.3%で、「4個から6個」が24.1%、「10個以上」が4%いることが明らかになった。

① アカウント数とネットの利用時間 (N=179)

「SNSのID、アカウント数」と、「一日のネ

ット平均利用時間」で、どのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(48)=86.852$, $p<0.01$, $p=0.001$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.348$ で有意で、残差分析の結果は、1%水準で有意であった。

残差分析より、「SNSのID、アカウント数」を「もたない」人のうち、「60分以内」が有意に多く、その一方、「4個」もつ人で、「10時間以上」が有意に多い結果が示された。さらに、「7個」と「10個」もつ人は、「6~9時間」、「9個」と「12個」もつ人は、「4~5時間」で有意に多かった。これらの結果から複数のアカウントを所持する人は、長い時間画面を見ていることが示された。

(4) Twitterのアカウントを2個以上の有無 (N=183)

Twitterアカウント2個以上の回答者のうち「はい」(80名、43.7%)、「いいえ」(103名、56.3%)だった。

(5) 勉強以外で、一番よく利用するネット状況 (N=183)

一番よく利用するのが、YouTube等の動画(51.4%)で、次がSNS(27.9%)、ゲーム(18%)、その他(2.7%)の順だった。

① Twitterのアカウント2個以上の有無と、勉強以外で利用するネット状況

Twitterが「2個以上の有無」と、勉強以外で「一番利用するSNS」で、どのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(3)=10.750$, $p<0.05$, $p=0.013$)、および、Fisherの正確性確立検定 ($p=0.013$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.242$ で有意で、残差分析の結果は、5%水準で有意であった。

残差分析より、調整済み残差が1.96を下回っていたのは、Twitterのアカウントが「2個以上」で、「YouTube等の動画」利用が有

意に少なかった。この結果をうけ、Twitterは、多様な関心のつながりも多いので、「YouTube等の動画」だけに偏って視聴することが少ないからだろう。

② 性別と、勉強以外で利用するネット利用の状況

「性別」と、勉強以外で「一番よく利用するSNS」で、どのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(3)=41.971$, $p<0.01$, $p=0.001$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.479$ で有意で、残差分析の結果は、1%水準で有意であった。

残差分析より、「男子」では、「YouTubeの動画等」、続いて、「ゲーム」だった。「女子」は、「SNS」の利用が有意に多いことが示された。

③ 一日のネットの利用時間とゲーム利用の状況

「一日のネット平均利用時間」と、「ゲーム」利用で、どのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

結果は、 χ^2 検定 ($\chi^2(12)=26.779$, $p<0.01$, $p=0.008$) で、関連度を表す連関係数は、 $V=0.221$ で有意で、残差分析の結果1%水準で有意だった。

残差分析より、「ゲーム」については、「6時間以上」が有意に多く示された。この結果をうけ、一部の生徒に、過剰に「ゲーム」にのめり込んでいる者が複数いることが示された。

(6) インターネットに公開している情報について (複数回答)

図3に示すように、インターネット上で公開している情報について複数回答で尋ねた。その結果は、①名前 (一部のみを含む) (42.0%)、②SNSのID・アカウント (18.3%)、③学校名 (12.9%)、④自分の写真 (12.1%)、⑤友達の写真 (8.9%) と公開している。わ

ずかなのが、⑥友達の名前、⑦住所 (一部のみを含む)、⑧電話番号、⑨メールアドレス、⑩その他で、0.9%あった。以下で主な関連性のある分析結果を示す。

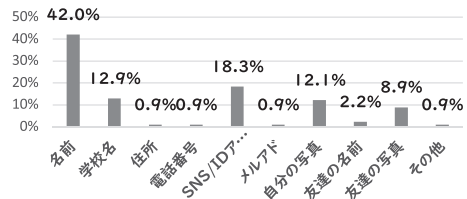


図3 インターネット上で公開している情報 (複数回答)

① 性別と、学校名の公開について

公開している情報「学校名」と、「性別」でどのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(1)=11.484$, $p<0.001$, $p=0.001$)、および、Fisherの正確性確立検定 ($p=0.001$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.282$ で有意で、残差分析の結果は、1%水準で有意であった。この結果をうけ、ネット上での「学校名」の公開は、「男子」は、「公開している」が、「女子」は、「公開していない」が有意に多いことが示された。

② 性別と、友達の写真の公開

公開している「友達の写真」と、「性別」でどのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(1)=5.293$, $p<0.001$, $p=0.021$)、および、Fisherの正確性確立検定 ($p=0.025$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.192$ で有意で、残差分析の結果は、1%水準で有意であった。

残差分析より、「女子」は、「友達の写真を公開している」が、「男子」は、「友達の写真の公開はしていない」が有意に多いことが示された。特に女子は、不特定多数の目に触れるだけに、注意喚起は必要といえる。

③ SNSのID、アカウント数と、SNSのID、アカウントの公開

「SNSのID、アカウントの数」と、ネット上に公開している情報のうち「SNSのID、アカウント」が、どのような傾向にあるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(12)=31.914$, $p<0.001$, $p=0.021$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.476$ で有意で、残差分析の結果は、1%水準で有意であった。

残差分析より、「SNSのID、アカウント数」が「1個」の人は、「公開はしていない」が有意に多かった。しかし、「SNSのIDアカウント」が「7個」と「10個」の人のうち、「SNSのID、アカウントの公開がある」が、有意に多かった。この結果と比べ、「1個」の人は、不特定多数の眼に触れることに慎重といえる。したがって、複数のアカウントを有する人が、「SNSのID、アカウントを公開している」ことから、犯罪被害への注意喚起が必要といえる。

(7) SNSのID、アカウント数と、友達の写真の公開

「SNSのID、アカウント」の数と、ネット上に「友達の写真」の公開をすることについてどのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(12)=23.678$, $p<0.05$, $p=0.022$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.410$ で有意で、残差分析の結果は、5%水準で有

意であった。

残差分析より、調整済み残差が1.96を上回っているのが、「SNSのID、アカウント」が「10個」と「11個」ある人のうち、「友だちの写真」を「公開している」人の割合が有意に多かった。先述した②の「性別」の分析結果にもつながる結果だけに注意喚起は必要といえる。

① Twitterアカウント2個以上の有無と、SNSのID、アカウントの公開

Twitterの「アカウント2個以上」の有無と、ネット上に「SNSのID、アカウント」の公開が、どのような傾向にあるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(1)=7.731$, $p<0.01$, $p=0.005$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.232$ で有意で、残差分析の結果は、1%水準で有意であった。

残差分析より、Twitterのアカウントを「2個以上持っている」人のうちで、ネット上に、「SNSのID、アカウント」を公開している人は、有意に多いことが示された。したがって、悪意のユーザーもいるので拡散などに注意が必要といえる。

(8) インターネット上でのトラブルの有無 (複数回答可)

図4に示すように、「SNS上で悪口を言われた」と「不正アクセスされた」が、(23.3%)で、続いて、「アカウントを乗っ取られた」(18.6%)、「お金を請求された」(16.3%)、「お

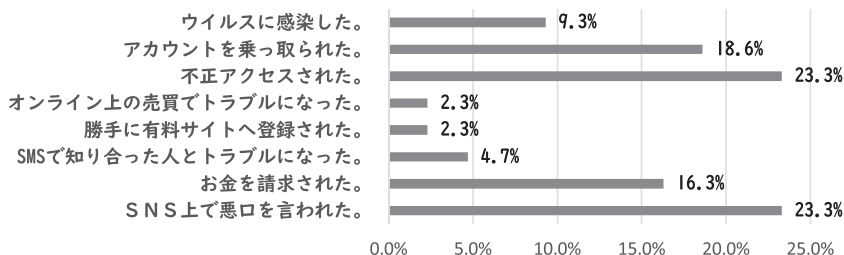


図4 トラブルについて (複数回答)

「ウイルスに感染した」(9.3%)だった。以下で、関連性のある主な分析結果を示すが、上記同様、犯罪被害にあわないよう注意喚起が必要な結果となった。

① SNSのID、アカウント数と、「お金が請求された」トラブル

「SNSのID、アカウント数」と、「お金を請求された」トラブルについて、どのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(12)=27.671$, $p<0.01$, $p=0.006$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.232$ で有意で、残差分析の結果は、1%水準で有意であった。

残差分析より、「2個」と「12個」の「SNSのID、アカウント」がある人のうち、「お金を請求された」ことが「ある人」は、有意に多いことが示された。

② SNSのID、アカウント数と、「SNSで知り合った人と」のトラブル

「SNSのID、アカウント数」と、「SNSで知り合った人とトラブル」について、どのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(12)=58.651$, $p<0.01$, $p=0.001$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.812$ で有意で、残差分析の結果は、1%水準で有意であった。

残差分析より、「7個」と「11個」もつ人のうち、「SNSで知り合った人とトラブル」になったことが「ある人」が、有意に多かった。

③ 性別と、「お金の請求」トラブル

ネット上で、「お金を請求された」トラブルと「性別」でどのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。 χ^2 検定 ($\chi^2(12)=58.651$, $p<0.01$, $p=0.001$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.812$ で有意で、残差分析の結果は、1%水準で有意であった。

残差分析より、「男子」のうち、「お金を請

求された」トラブルに巻き込まれた人が、有意に多く、「女子」は、「ない」が有意に多かった。

「男子」の場合、例えば、ゲームの課金など、ネット上で金銭的トラブルになる危険性が考えられる。

④ タブレットの未使用と、「アカウント乗っ取られ」トラブル

ネットにつながる「タブレットの未使用」の人と、「アカウントのっとり」トラブルで、どのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(1)=6.414$, $p<0.05$, $p=0.039$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.264$ で有意で、残差分析の結果は、5%水準で有意であった。

残差分析より、「タブレットの未使用」の人のうち、「アカウントのっとり」されたことが「ある」人が、有意に多いことが示された。この結果をうけ、他の機種を通じて「アカウントのっとり」の危険性に注意が必要といえる。

⑤ SNSアカウント数と「金銭請求」のトラブル (N=83)

「SNSのID、アカウント数」と、「金銭を請求された」で、どのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(12)=27.671$, $p<0.01$, $p=0.006$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.264$ で有意で、残差分析の結果は、1%水準で有意であった。

残差分析より、「SNSのID、アカウント数」が「2個」と「12個」の人のうち、「金銭を請求された」人が、有意に多いことが示された。アカウント数に関係なく金銭トラブルに巻き込まれる危険性は否定できない結果であった。

⑥ SNSのID、アカウント数とSNSで知り合った人とのトラブル (N=89)

「SNSのID、アカウント数」と、「SNSで知り合った人と」トラブルについて、どのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(12)=58.651, p<0.01, p=0.001$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.812$ で有意で、残差分析の結果は、1%水準で有意だった。

残差分析より、アカウント等が、「7個」と「11個」の人のうち、「SNSで知り合った人とトラブルに巻き込まれた」が、有意に多いことが示された。したがって、複数の「SNSのID、アカウント数」を持つ人のうち、「SNSで知り合った人」とトラブルに巻き込まれる可能性が高いといえる結果であった。

(9) インターネット上で知り合った人と「実際に会う」ことについて

選択肢を3つ用意した。ネットで知り合った人と、「会いたかったら会っても良い」(12.4%)、「条件を満たせば会っても良い」(37.1%)、「会わない方が良い」(の3択で尋ねた (N=178)。以下、ネット上で知り合った人との関連性についてみていく。

① 性別と実際に会うことについて (N=178)

インターネット上で知り合った人と「実際に会う」ことについて、「性別」でどのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(2)=12.133, p<0.01, p=0.001$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.332$ で有意で、残差分析の結果は、1%水準で有意であった。

残差分析より、「男子」は、「実際に会ってもよい」が、「女子」は、「会わないほうが良い」が有意に多かった。結果をうけ、「男子」は、実際に会うことに抵抗感が薄いことが示された。

(10) 実際の出会いと、「勝手に有料サイトに登録された」トラブル

インターネット上で知り合った人と「実際に会う」ことと、「勝手に有料サイトへ登録された」トラブルで、どのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(2)=7.230, p<0.01, p=0.002$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.365$ で有意で、残差分析の結果は、1%水準で有意であった。

残差分析より、「実際に会ってもよい」人のうち、インターネット上で「勝手に有料サイトへ登録されたことある」人は、有意に多かった。したがって、ネット上の希薄な関係のまま興味や関心が優先し、実際に会った結果、トラブルにあっている生徒がいることが示された。

① 条件が合えば会ってもよいと、「不正アクセスされた」トラブル

インターネット上で知り合った人と「条件が合えば会ってもよい」と、「不正アクセスされた」トラブルで、どのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(2)=7.230, p<0.05, p=0.027$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.282$ で有意で、残差分析の結果は、1%水準で有意であった。

残差分析より、「条件が合えば会ってもよい」人が、「不正アクセスされたことがある」が、有意に多かった。条件次第で会ってもよい人は、悪意のある人にとっては、わかりやすい相手の弱点(条件)をつかれたといえる。

(11) 「条件を満たせば会ってもよい」と答えた人「のみ」の条件

ネット上で、「条件を満たせば会ってもよい」人「のみ」に、「SNS上で、どんな条件を満たせば会っても良いか？」を複数回答で尋ねた。

図5に示すように、「イベント会場で会うなら」が最も多く、「年齢が近い」、「趣味が

同じ、「知り会って半年」・・・の順であった。以下では、その条件からの関連性をみていく。

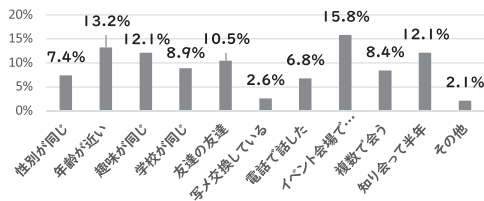


図5 条件が満たせば会ってもよい条件 (複数回答)

① 性別と、条件「性別が同じ」なら会ってもよい

「性別」条件を満たせばネット上の人でも「実際に会っても良い」人と、「性別」でどのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(1)=5.457, p<0.019, p=0.019$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.290$ で有意で、残差分析の結果は、1%水準で有意であった。

残差分析より、「女子」は、「性別が同じ」であれば「会っても良い」が、有意に多く、「男子」は、同条件では有意に少なかった。

したがって、女子は、「性別が同じ」というだけで安易に会う可能性があることから、注意喚起が必要といえる。

② 性別と、条件「趣味が同じ」なら会ってもよい

「趣味が同じ」条件を満たせば「実際に会ってもよい」人と、「性別」でどのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(1)=8.547, p<0.01, p=0.003$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.363$ で有意で、残差分析の結果は、1%水準で有意であった。

残差分析より、「女子」は、「趣味が同じ」であれば「会っても良い」が有意に多く、「男子」は、有意に少なかった。したがって、女子の方が「趣味が一緒」であれば実際に会

うことに抵抗感が薄いことが示された。

③ 性別と、条件「イベント会場であうなら」よい

「イベント会場であう」条件を満たせば「実際に会ってもよい」人と、「性別」でどのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(1)=5.074, p<0.05, p=0.024$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.279$ で有意で、残差分析の結果は、5%水準で有意であった。

残差分析より、「女子」は、「イベント会場であうなら会ってもよい」が有意に多く、「男子」は、同条件は、有意に少なかった。したがって、「女子」は、「イベント会場なら」人の眼があることや、関心が共通しているなどから安全と考えている傾向が高いことが示された。

④ Twitterのアカウント2個以上の有無と、条件「趣味が同じ」なら会う

「趣味が同じ」という条件が合えば「実際に会ってもよい」人と、「Twitterのアカウント2個以上の有無」で、どのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(1)=6.660, p<0.01, p=0.010$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.320$ で有意で、残差分析の結果は、1%水準で有意であった。

残差分析より、Twitterのアカウントが「2つ以上ある」人のうち、「趣味が同じ」なら「実際に会っても良い」人が、有意に多かった。「趣味が同じ」というだけで、短期間で信頼関係が築きやすい傾向だけに、その後の注意喚起は必要といえる。

(12) 周囲の人で、次のような人を聞いたことがあるかの有無 (複数回答可)

インターネット上で、「周囲でネット犯罪の知識を持つ人を知っているかどうか」について複数回答で求めた。その結果は、表1に

示すように、「インターネットの海賊版のマンガ・動画をみている（ダウンロードしている）人」60.8%と最も多かった。以下では、主な分析結果を示す。

表1 周囲でネット犯罪の知識を持つ人を知っているかどうかについて（複数回答）

友達になりすまして、ゲームのアイテムを勝手に自分のものにすることができる人	4.1%
他人のID・パスワードで、サイトやゲームをつかうことができる人	4.1%
他人のコンピューターやサーバを、ハッキングすることができる人	14.9%
ゲームの情報掲示板などで、アイテムやキャラクターを売買することができる人	10.8%
インターネットの海賊版のマンガ・動画をみている（ダウンロードしている）人	60.8%
コンピューターウイルスを作った人	2.7%
インターネットを使って不正にお金を得た人	2.7%

① 性別と、周囲に「友達になりすまして、ゲームのアイテムを勝手に自分のものにすることができる人」について

周囲に「友達になりすまして、ゲームのアイテムを勝手に自分のものにすることができる人」を聞いたことがあるか」と、「性別」でどのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(1)=5.282$, $p<0.05$, $p=0.048$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.215$ で有意で、残差分析の結果は、5%水準で有意であった。

残差分析より、「友達になりすまして、ゲームのアイテムを勝手に自分のものにすることができる」人を、「男子」は「聞いたことがある」、「女子」は、「ない」が有意に多いことが示された。

② 性別と、周囲に「他人のコンピューターやサーバを、ハッキングすることができる人」について (N=104)

周囲で「他人のコンピューターやサーバをハッキングすることができる人」を聞いたことがあるか」と、「性別」でどのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(1)=10.584$, $p<0.01$, $p=0.002$)、Fisherの正確性確立検定 ($p=0.002$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.305$ で有意で、残差分析の結果は、1%水準で有意であった。

残差分析より、「男子」は、周囲に「他人のコンピューターやサーバをハッキングすることができる人」を「聞いたことがある」、「女子」は、「ない」が有意に多いことが示された。

③ 性別と、周囲に「ゲームの情報掲示板などで、アイデアやキャラクターを売買することができる人」について (N=114)

周囲で「ゲームの情報掲示板などで、アイデアやキャラクターを売買することができる人」を聞いたことがあるか」と、「性別」でどのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(1)=9.489$, $p<0.01$, $p=0.004$)、Fisherの正確性確立検定 ($p=0.004$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.289$ で有意で、残差分析の結果は、1%水準で有意であった。

残差分析より、「男子」は、周囲で「ゲームの情報掲示板などで、アイデアやキャラクターを売買することができる人」を「聞いたことがある」が、「女子」は、「ない」が有意に多いことが示された。

④ 性別と、周囲に「インターネットの海賊版のマンガ・動画をみている、ダウンロードしている人」について

周囲で「インターネットの海賊版のマンガ・動画をみている、ダウンロードしている

人を聞いたことがあるか」と、「性別」でどのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(1)=28.421$, $p<0.001$, $p=0.001$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.499$ で有意で、残差分析の結果は、1%水準で有意であった。

残差分析より、「男子」は、周囲で「インターネットの海賊版のマンガ・動画をみている、ダウンロードしている」のことを「聞いたことがある」が、「女子」は、「ない」が有意に多いことが示された。

⑤ ネット時間と、周囲に「インターネットの海賊版のマンガ・動画をみている、ダウンロードしている人」について

周囲で「インターネットの海賊版のマンガ・動画をみている、ダウンロードしている人を聞いたことがあるか」と、「1日のインターネットの平均利用時間でどのような傾向があるのか」をクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(3)=7.926$, $p<0.05$, $p=0.048$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.264$ で有意で、残差分析の結果は、5%水準で有意であった。

残差分析より、周囲で「インターネットの海賊版のマンガ・動画をみている、ダウンロードしている」のことを「聞いたことがある」人は、利用時間が「60分以内」が有意に少なかった。したがって、海賊版のマンガ・動画等の視聴に関心のある人は、ネットの利用時間に少なからず影響があることが示された。

⑥ SNSのアカウント数と、周囲で「他人のID・パスワードで、サイトやゲームをつかうことができる人」について

周囲で「他人のID・パスワードで、サイトやゲームをつかうことができる人を聞いたことがあるか」と、「SNSのID、アカウント数でどのような傾向があるのか」をクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(11)=37.752$, $p<0.01$, $p=0.001$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.586$ で有意で、残差分析の結果は、1%水準で有意であった。

残差分析より、「SNSのID、アカウント数」が「10個」の人と、周囲で「他人のID・パスワードで、サイトやゲームをつかうことができる人」を「聞いたことがある」は有意に多かった。

「10個」のアドレス等を使いこなす人のなかには、不正行為についても情報を取得する能力がある人も含まれている可能性は否定できない結果といえる。

(13) インターネット上の犯罪に対する用語の確認

図6と表2は、サイバー犯罪の用語「15個」について、5段階選択で回答を求めた（「言葉も意味もよく知ってた」、「言葉は知ってた、意味はあいまい」、「言葉は知ってた、意味は知らない」、「言葉は聞いた気がする」、「今回初めて聞いた」）。

用語についての問いは、「①セキュリティ・ホール」、「②インジェクション」、「③フィッシング」、「④ワンタイムパスワード」、「⑤ダークウェブ」、「⑥Tor」、「⑦不正指令電磁的記録」、「⑧ランサムウェア」、「⑨児童ポルノブロッキング」、「⑩ポットネット」、「⑪DDos攻撃」、「⑫サイバーインテリジェンス」、「⑬標的型メール攻撃」、「⑭営業秘密不正取得罪」、「⑮情報セキュリティのCIA」の15項目とした。以下、その関連性を含めて主な分析結果を示す。

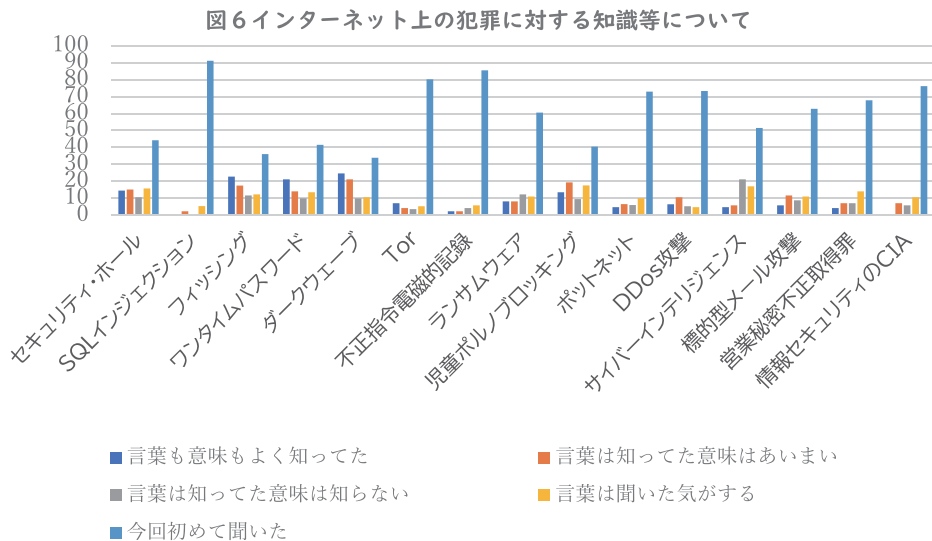


図6 インターネット上の犯罪に対する知識等について

表2 インターネット上の犯罪に対する知識等について (%)

質問項目 <用語>	言葉も意味もよく知ってた	言葉は知ってた意味はあいまい	言葉は知ってた意味は知らない	言葉は聞いた気がする	今回初めて聞いた
セキュリティ・ホール	14.5	15.1	10.5	15.7	44.2
SQL インジェクション	0.6	2.3	0.6	5.3	91.2
フィッシング	22.7	17.4	11.6	12.2	36
ワンタイムパスワード	21.1	14	9.9	13.5	41.5
ダークウェブ	24.6	21.1	9.9	10.5	33.9
Tor	7	4.1	3.5	5.2	80.2
不正指令電磁的記録	2.3	2.3	4.1	5.8	85.5
ランサムウェア	8.1	8.1	12.2	11	60.5
児童ポルノブロッキング	13.5	19.3	9.4	17.5	40.4
ポットネット	4.7	6.5	5.9	10	72.9
DDos攻撃	6.4	10.5	5.2	4.7	73.3
サイバーインテリジェンス	4.7	5.8	21.1	17	51.5
標的型メール攻撃	5.8	11.6	8.7	11	62.8
営業秘密不正取得罪	4.1	7	7	14	67.8
情報セキュリティのCIA	0.6	7	5.8	10.5	76.2

① Twitterのアカウント2個の有無と「フィッシング」用語の確認 (N-172)

「Twitterのアカウント2個以上の有無」と、「フィッシング」用語の確認で、どのような傾向があるのかをクロス集計表により検

証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(4)=13.941$, $p<0.01$, $p=0.007$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.285$ で有意で、残差分析の結果は、1%水準で有意であった。

残差分析より、Twitterのアカウントを

「2つ以上ある」人のうち、「フィッシング」の用語について、「言葉も意味もよく知っていた」、「言葉は知っていたが、意味は知らない」で有意に多かった。また、「Twitterのアカウントが2つ以上持たない」人は、「今回初めて聞いた」人が有意に多かった。

② Twitterのアカウント2個の有無と「ダークウェブ」用語の確認 (N-171)

「Twitterのアカウント2個以上の有無」と、「ダークウェブ」用語の確認で、どのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(4)=13.198$, $p<0.01$, $p=0.01$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.278$ で有意で、残差分析の結果は、1%水準で有意であった。

残差分析より、Twitterのアカウントを「2つ以上ある」人のうち、「ダークウェブ」の用語について、「言葉も意味もよく知っていた」が有意に多いことが示された。また、Twitterのアカウントが「1つ以下」の人は、「今回初めて聞いた」が有意に多かった。

③ Twitter 2個以上の有無と「不正指令電磁的記録」用語の確認 (N-172)

「Twitterのアカウント2個以上の有無」と、「不正指令電磁的記録」用語の確認で、どのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(4)=11.950$, $p<0.05$, $p=0.018$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.264$ で有意で、残差分析の結果は、5%水準で有意であった。

残差分析より、Twitterのアカウントを「2つ以上ある」人のうち、「不正指令電磁的記録」用語について、「言葉も意味もよく知っていた」が有意に多いことが示された。

④ Twitter 2個以上の有無と「ランサムウェア」用語の確認 (N-172)

「Twitterのアカウント2個以上の有無」

と、「ランサムウェア」用語の確認で、どのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(4)=13.416$, $p<0.01$, $p=0.009$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.279$ で有意で、残差分析の結果は、1%水準で有意であった。

残差分析より、Twitterのアカウントを「2つ以上ある」人のうち、「ランサムウェア」用語について、「言葉も意味もよく知っていた」が有意に多かった。

また、Twitterのアカウントが「1つ以下」の人は、「今回初めて聞いた」が有意に多かった。

⑤ Twitter 2個以上の有無と「児童ポルノブロッキング」用語の確認 (N-171)

「Twitterのアカウント2個以上の有無」と、「児童ポルノブロッキング」用語の確認で、どのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(4)=10.611$, $p<0.05$, $p=0.031$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.249$ で有意で、残差分析の結果は、5%水準で有意であった。

残差分析より、Twitterのアカウントを「2つ以上ある」人のうち、「児童ポルノブロッキング」について、「言葉も意味もよく知っていた」「言葉は知っていた、意味はあいまい」で有意に多いことが示された。また、Twitterのアカウントが「1つ以下」の人は、「今回初めて聞いた」が有意に多かった。

(14) SNSのID、アカウント数と「フィッシング」用語の確認について

「SNSのID、アカウント数」と、「フィッシング」用語の確認で、どのような傾向があるのかをクロス集計表により検証を行った。

χ^2 検定 ($\chi^2(48)=76.275$, $p<0.01$, $p=0.006$)、関連度を表す連関係数は、 $V=0.337$ で有意で、残差分析の結果は、1%水準で有意であった。

残差分析より、「SNSのID、アカウント数」

と、「フィッシング」用語の確認で、「4個」では、「言葉は聞いた気がする」、「8個」では「言葉は知っていた、意味はあいまい」、「9個、10個、11個、12個」では、「言葉は知っていた、意味は知らない」が有意に多かった。

したがって、先に示した結果同様、複数の「SNSのIDアカウント」を持っている人は、「言葉は知っていた」としても、「意味までは分からない」という結果からも、注意喚起とネット犯罪の用語への理解は必要といえる。

まとめ

本調査結果を通して、インターネット上のコミュニケーション手段として利用されるSNSは、接続している個人のメディアリテラシーの未熟と、状況認識の誤りからトラブルに遭遇していることが明らかとなった。また、SNSでは日常の出来事などを手軽に発信できるがゆえに、プライバシーへの配慮を欠いている点も見えてきた。今回、特に、それほど親しくない相手や、見知らぬ相手ともつながることができ、不特定多数が見ることができSNS上に、自分や他者のプライバシー情報を無断で公開してしまい、トラブルに発展してしまうケースがあることが示された。さらに、スマートフォンを使い、ソーシャルゲームは無料では楽しめるが、一度、課金を始めると、ゲームに没頭し、おこずかいの範囲内ですまなくなる金銭トラブルが見え隠れしている。

特に女子は、ネットに投稿した写真や動画は、仲間内だけでなく、本人、友達の写真が不特定多数の目に触れ、悪意を持った第三者にコピー・拡散される可能性もあるのに、安易に投稿する生徒がいる。

Twitterのアカウントを複数もっている人の中には、多様な使い分けをする中で、金銭的なトラブル以外にも、条件さえあれば「実際に会う」ことへの抵抗感が薄く、自分は大丈夫と思っているのか、最終的に自力で解決

できないトラブルに巻き込まれる可能性は否定できない。今回の調査によって、大人たちの眼には勉強が出来る生徒と思われがちではあるが、家庭や教育現場での指導を超えた結果であり、サイバーボランティアの活用や、警察、民間支援団体との連携によって注意喚起の時間が急務といえる結果であった。最後に、アンケート協力してくださった皆様に感謝申し上げる。

参考文献

青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関するタスクフォース「(別添1) 青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関する新たな課題及び対策」、p.11,https://www.soumu.go.jp/main_content/000761208.pdf (閲覧日2023年9月30日)

内閣府「令和4年度 青少年のインターネット利用環境実態調査 調査結果(概要)」令和5年3月、https://www8.cao.go.jp/youth/kankyou/internet_torikumi/tyousa/r04/net-jittai/pdf/kekka_gaiyo.pdf (閲覧日2023年9月30日)

